

ずらかべぐ急し如がく行を道き遠てふ負を荷き重は生一の人

日本法律學士 岩本英夫

わものはあるの無いのと、誰へ人へ申しやす
が、無いつては方々は、全々、天狗に云ふ
者は、どうもいやす、私共は現に天狗に出會つ
たどうも、驚いちゃつたつて、膽玉ア打潰し
て仕舞ひやした、**名主**、天狗に會つた、何
處で會つた、**瘤**、**原**、乃至は道祖様の山で
いも出會したか、**ウイ**、そんな處なら此方
も覺悟して居るが、うい程驚かぬしねい、
飛んだ所で天狗様に會出した、**名主**、**阿婆**
女に板橋、斯うく橋の真中へ私共は
憩と發込んで居て、何か宜か囁が掛つたら
ば、**お**占やうち、待つて居る所へ、土が一
通り掛つた、私共が發て居る頭の上を踏い

野郎を呼び止めて感したんだ、すると其野郎が「屠殺」立つて、一般多生、往來の者の爲に手前達を斬つたらうと斯う言ひおきて、私共の前へかくと来て、私共を睨んだ、イヤ其奴のどうも眼珠の大きいやつて光るやつてどうも驚いてしまひやした、おれが本當の天狗様に違ひございやせぬ、一睨睨されたんで裸ひ上つちまつてどうする事も出来やせぬ、命からうして一生懸命逃げろつたんで、今以て思出すと身の毛が慄つやうでございやすが、どうも世の中には何でございやすナ、大體なものが居りやす、なんでも人の言ふ事をけなすもんぢやあございやせぬ、天狗がねいゝんていのは大體違ひ、天狗は居ますヨ、フームさうか、天狗が……、〇、ハイ天狗でござやす、どうも今以て目に耽て居ます」と云つて此賊が「一語に」した賊奴が高山彦九郎に睨み付けられました賊

あつた、實に高山彦九郎の勢ひと云ふも
は大したもののでございませう。

廣 告

●土耳古

本社とはトルコ最大農製造會社にして其製
界各國に最多の輸出をなし好評を以て迎
京城本町四丁目角 デーエ

仁川港本町通 仁川代理店



馬町 年益 活話 話産 につて いやねい 名んて

草煙 島 卷ハ

廣江商會 京江商會 電話六七五

是

支店電話二六六番

朝日石鹼製造所

賣



茶

京 城 本 町 五 丁 目
富 士 土 里 的 茶 舖
電 話 九 七 九 番


日韓印刷株式會社

活版、石版、銅版、各種印刷、帳簿、裝釘、書籍、製本及ビ印刷、諸材料販賣

遍ク諸材料ノ精撰ヲ計リ期日ノ正確ヲ旨トシ最モ敏活ニ最モ低廉ニ御高需ニ應ジ候間多少ニ不係御注文ノ程希上

本社 東京明治町三丁目
電話三二三番
出張所 東京麹町區麹町
八丁目十九番地
電話番町二九〇番

明治廿七年七月創立 ● 京城代辦店 本町四山口吳服店 電話九番
東京火災運送保險株式會社
 資本金一千萬圓 ● 事務所 京城市町二の三 電話一〇六〇番






大
清
光
緒
二十六年
牛乳
荒丹牧場
○五六

與行德然似有符契者匪難辨也
 歐陽氏洋軒書齋面經堂也
 易麻製本町五丁目
 相教授
 三二一
 館

土御門派大陸學師
 帝主

●新聞
 ●廣告

價金銀二枚今日金貳圓貳拾一分金
 價五圓半十九字附一行一百五十錢
 價五圓半九字附一行七十五錢
 價五圓半八字附一行六十二錢
 價五圓半七字附一行四十八錢
 價五圓半六字附一行三十六錢
 價五圓半五字附一行二十四錢
 價五圓半四字附一行十二錢
 價五圓半三字附一行六錢
 價五圓半二字附一行三錢
 價五圓半一字附一行一錢五分

特約販賣自製

漬物 味噌 油 製造元

京 城 本 町 五 丁 目

大 上 商 店

(電話 二五一番)

和洋酒、國精酢、穀物類、銘茶、罐詰、乾物、罐頭、食料雜貨、ビール、米、桃、塩辛、日本食鹽各種特約販賣、卸、批發、小売

●品質純良の牛乳を得んとせば乳牛の食料に注意を要す 弊場風に此に留意し好良の食料を給す

ち

東京本町五丁目(電山七番)

販賣元 松尾支店

取所 松尾牧場

●弊場搾取の牛乳を愛飲せらるゝ御鑑若は最も滋養豊富風味佳良の牛乳を飲用し得らるべし